

元気企業
訪問

ミナトパックス
株式会社

短納期強みに 顧客の信頼獲得 新設備導入で さらなる生産効率向上へ

創業来続く無借金経営

工場に入ると生産ラインの長さにも驚かされます。一つはロール状で仕入れた原紙を段ボールシートにする貼合機。波状にした紙を間にし、上下両側から平らな紙で挟み込んで貼り合わせて作ります。

もう一つは製函機。出来上がった段ボールシートをケースに加工する設備で、シートを切断し、折り目を入れ、印刷をするまでを担います。いずれの機械も、100円ほどの非常に大掛かりなラインで、わずかな汚れや印刷のずれを見逃さないように高品質のカメラで自動チェックが行われています。

「段ボールメーカーは設備産業。毎年のように多額の設備投資が伴うため、いかに計画的に設備を導入してい

くかが問われます」と社長の鈴木正純さんは言います。資金繰りが問われる中で、同社では創業来無借金の堅実な経営を続けてきました。

短納期を徹底

同社は鈴木社長の父が1949年に創業。祖父が営んでいた造船業で出てくる端材を使用して、食品輸送用の木箱を作ったのが始まりです。58年には軽量の梱包材として普及し始めた段ボールの製造に着手し、その後特化していくことになります。「新鮮なものを頻繁に配送する食品メーカー向けが多いので、どの段ボールメーカーもおよそ半径100km圏内に得意先を持っています。それだけに競合がひしめいて

を分析します。

その中で同社は「見積りの要請が入ったら30分以内に回答することを基本とし、その日に入った注文を翌日に配送することにも対応します」と、特にスピードを強みにしています。こうした取り組みが得意先からの信頼につながっています。

低利率で資産化できるメリット

鈴木社長は昨年、貼合機、製函機ともに新たな設備を導入することを決断しました。競争に勝ち抜いていくためにはさらなる生産性の向上が欠かせないと判断したからです。併せて、「繁忙期で150%の稼働率が続いていたため、社員の仕事の負担軽減にもつながれば」とその目的を話します。昨年9月にまず製函機を導入。これにより従来は1分間に300枚だった生産能力が、400枚に向上しました。さらに今年1月からは、数カ月をかけて貼合機の付帯設備を順次導入していきます。

貼合機の付帯設備の導入に当たって、同社は今回初めてひょうご産業活性化センターの設備貸与制度を利用しました。「利率が低いこと、そして支払いを終えた後には自社の資産になることもありがたいと思いました」とメリッ



風土改革のための研修も実施

トを語ります。「自己資金で充当することもできるのですが、手元にキャッシュフローを残しておきたい。その点でも助かります」

鈴木社長は6年前の就任以来、より強い会社になるために自律的な組織づくりに取り組んできました。「精神論だけでは限界がある。設備の導入によ

ってより働きやすい環境を整え、提案型の会社に育てていきたい」と、設備更新を機に新たな目標に挑もうとしています。

会社概要
みなとパックス株式会社

所在地 三木市福井2126
代表取締役 鈴木正純
事業内容 段ボールケース、段ボールシートの製造販売

TEL 0794-82-2582
URL <http://www.minatopacks.co.jp/>

支援メニュー講座

設備貸与制度

設備貸与制度の活用で経営基盤を強化

制度概要

設備の増強・更新を図ろうとする中小企業の方に代わってセンターが設備を購入し、中小企業の方に長期（10年以内）かつ固定金利（年率0.95%～2.20%）で割賦販売またはリースするものです。

メリット

最大のメリットは、金融機関の借り入れ枠や信用保証協会の保証枠とは別枠で利用できることです。また、設備貸与制度のみならず当センターは、曜日ごとに中小企業診断士等の専門家による無料の窓口相談を随時受け付けています。さらに当センターは中小企業支援機関との連携により県内企業を支援する「中小企業支援ネットひょうご」を活用し、経営・技術・情報などさまざまなサポート体制が構築されていますので、制度利用後のフォローアップを含めた手厚いサポートがあるのも特長です。

設備の更新、新規導入、省エネへの取り組みをご検討されている方はぜひ設備貸与制度の利用をご検討ください。

問い合わせは ひょうご産業活性化センター設備投資支援室 TEL 078-230-8801